

これからの生化学・免疫検査技師に望むこと

◎池田 弘典¹⁾

佐賀大学医学部附属病院¹⁾

検査室では、生化学検査を意欲的に学ぶ技師は少なく、多くの生化学検査室のスタッフは新人とベテランに2極化し後継者の育成が課題となっている。さらに、今では臨床化学の現場で必要な技術・スキルの価値観が変わり、従来の知識や技術の伝達が困難になってきたように感じる。そのため、これからの生化学・免疫検査を担う検査技師に求められるスキルについて私見を述べる。

コスト分析

1年間で購入した試薬・標準液・管理物質・消耗品の総和を年間検体数で割ったものがランニングコストである。また、表に出にくい保守・点検のメンテナンスコストがある。マネジメントはコスト分析から始まる。コストと臨床サービスのバランスを総合的に考えて、検査を院内導入か外部委託にするかの判断は、検査部が主導が望ましい。

データ解析と情報発信

今までは、診断は医師、検査は技師が判断していた。これからは、検査部門が病態解析を行い、疑われる病態の可能性とそれを絞り込むための推奨される追加検査を医師に情報発信する。そのために、臨床医の協力を得て検査結果から病態や原因臓器・疾病などを絞り込む手法をシステム化・AI化する必要がある。医師・技師の連携によるダブルチェックが目的である。

マネジメントスキル

TAT評価、機器稼働率、ランニングコスト、超過勤務、問合せ、などのような検査部門の現状を可視化する指標を固定化し、定期的にモニタリングする。この情報を基に生産性向上や病院と戦略的に交渉するスキルが求められる。

問題解決能力の向上

学位の取得や同学院の一級臨床検査士取得を目指し、理論的思考や問題解決能力を学ぶ。

今までの生化学技師が大切に思っていた、酵素反応やピペット操作などのスキルや価値観が変わりつつある。今後は、このような技術的・経済的変革を乗り切って検査技師の存在感や社会的地位の構築を目指してほしい。